



レクダンス



講義の様子

<< 育成者研修会 >>



KYT 講習会

<< さいたま市かるた大会 >>



会場風景



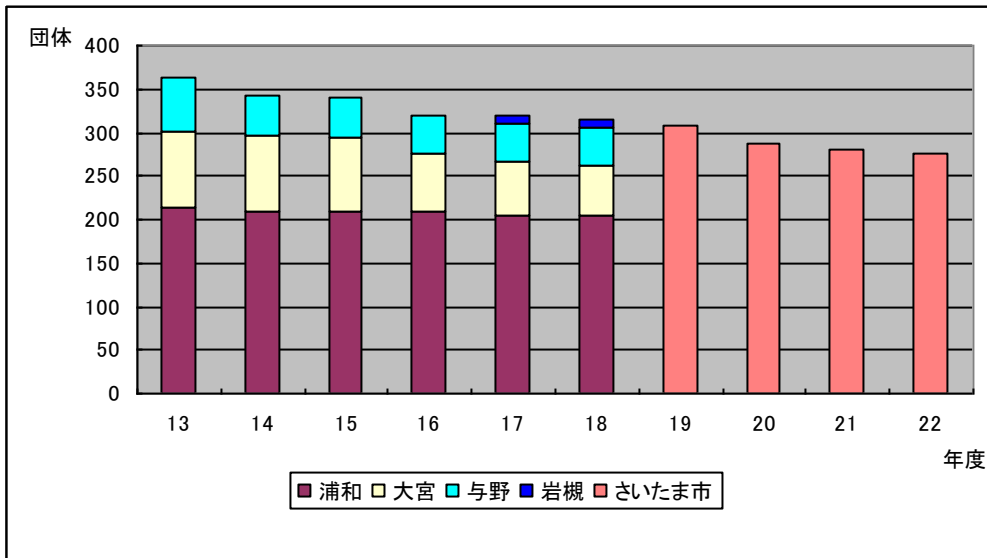
団体戦の様子



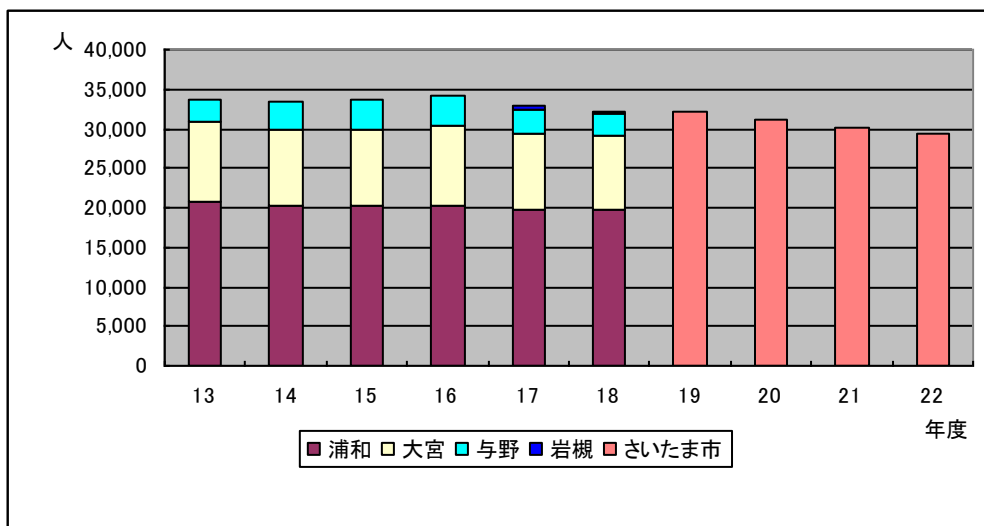
個人戦の様子

団体数・会員数の推移 (安全会加入者数による)

団体数	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
浦和	214	210	210	210	205	205	307	288	291	276
大宮	87	86	85	65	62	58				
与野	63	47	45	45	43	43				
岩槻	17年度からさいたま市に合併				10	10				
さいたま市	19年度から10区統一になる									



会員数	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
浦和	20,642	20,330	20,330	20,330	19,645	19,645				
大宮	10,251	9,600	9,530	10,080	9,830	9,350				
与野	2,750	3,434	3,758	3,758	2,900	2,900				
岩槻	17年度からさいたま市に合併				420	337				
さいたま市	19年度から10区統一になる						32,156	31,087	30,061	29,415



かるた大会競技結果

☆開催会場：さいたま市大宮武道館

回 目	開 催 日	団体の部				個人の部			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
		上段；全学年		下段：低学年		上段；全学年		下段：低学年	
1	19	見沼A	見沼B	見沼C	西A	西A	見沼B	見沼F	見沼G
	2/3	低学年大会は無							
	県	◇3位：見沼A							
2	20	見沼B	見沼A	見沼D	西A	見沼A	見沼B	西C	見沼D
	2/17	見沼A	見沼E	西A	見沼D	見沼A	見沼B	見沼D	見沼C
	県	◇3位：見沼B				◇5位：見沼B			
3	21	見沼B	見沼A	見沼C	桜B	見沼A	西A	見沼B	見沼C
	2/22	見沼A	見沼B	見沼C	北C	見沼A	見沼B	見沼C	西A
	県	◇5位：西B				◇準優勝：見沼A			
4	22	見沼A	見沼D	見沼C	西C	見沼A	浦和C	見沼B	緑C
	2/13	見沼B	見沼A	北A	北B	北B	見沼B	見沼D	西A
	県					◇7位：岩槻B			
5	23	見沼A	西C	西B	浦和B	見沼C	見沼B	緑C	見沼D
	2/12	北A	北D	見沼A	見沼E	北A	見沼D	見沼C	見沼A
	県	◇東日本大地震により県大会を中止した／さいたま市記念総合体育館							
6	24	北A	浦和B	西A	北B	見沼C	見沼B	見沼A	見沼C
	2/18	低学年大会は無							
	県					◇7位：見沼B			

*個人情報のため、個人名称は省略させていただきます。

【県旗（まが玉）】

まが玉は、埼玉古墳など県内各地の古墳から出土しています。まが玉は、古代人の装飾品として、首かざりなどとして大切に使われてきました。埼玉県の「県章」は、まが玉が16個円形にならべられたものです。これは、県民が団結し、円満に手を取り合って発展していくようにとの願いがこめられたものです。



平成 23 年度

さいたま市子ども会育成連絡協議会役員名簿

役職名		氏 名	関連職
会 長		小 峰 武 久	県副会長・ライブラリー
副 会 長		望 月 三 之	会計・安全会担当
		多ヶ谷 長 喜	かるた担当
		厚 澤 日出男	県さいたま支部長
		吉 野 一	JL 育成部担当
常任理事	西	栗 原 義 晃	
	北	翠 川 利 文	
	見沼	吉 山 悟	
	大宮	針 谷 浩 一	
	中央	望 月 三 之	
	浦和	帆 足 和 之	
	桜	細 井 睦 子	J L 育成部長
	南	田 中 ミサ子	
	緑	厚 澤 日出男	
	岩槻	多ヶ谷 長 喜	
理 事	西	小 関 重 治	
	北	古 谷 敦 子	
	見沼	石 田 一 男	
	大宮	松 本 千鶴子	
	中央	平 井 優 子	
	浦和	阿 部 久美子	
	桜	川 崎 ひろみ	
	南	坪 井 智 子	
	緑	守 富 一 夫	
	岩槻	田 口 ゆり子	
会 計		馬 場 美千代	北区
		松 本 和 枝	桜区
監 事		福 島 勉	見沼区
		森 下 貴 江	浦和区

《 事務局 》

〒331-0821 北区别所町 44-9 (城内三千代方) Tel : 6 5 1 - 2 5 0 2 Fax : 6 6 0 - 4 9 7 9 http://saitamashikoren.web.fc2.com/ e-mail:michiyo@jonai.net	局 長	城 内 三千代	県指導研修部 廃棄物減量等推審
	局 員	永 易 紀 子	県安全対策部
	さいたま支部担当	水 村 芳 勝	県広報部
	安全会担当	山 崎 明 美	浦和区



さいたま市子ども会連絡協議会は10年の節目を迎えて、ここに記念誌を発行することになりました。「継続は力なり」の言葉通りに積み重ねることが吉となるように願っています。

本誌「各区の活動報告」にありますように10区がそれぞれの特色を生かした内容で活動し、その傘下の単位子ども会はつつがなく役目を遂行しています。10年以上前から抱える問題は、会員数の減少、役員の不足と一向に変わりませんが、社会環境が激変する中、子ども達は子どもらしさを失ってはいません。変わらないものを守ることが私たちの使命と思っています。変わってしまった社会の中で手をこまねているのではなく環境に合わせていくことも一つの使命と思っています。子ども会は柔軟であり、磐石であることは子ども達から教わりました。

また、唯一の事業でありますジュニア・リーダーの養成・育成は、今年度第10回の研修会を開催しております。研修会の企画運営に携わる若い指導者も、10年前には研修会の参加者でした。連綿と研修終了者が指導者へ、そして育成者へと継っています。

新たな11年目に向かってスタートしますが、取り巻く社会情勢は暗いニュースで覆われています。それでも愛らしい子ども達が活躍できるように、子ども達の力を発揮させ、大人たちが元気をもらって明日への糧とすることで次世代へと繋ぐ人心ネットワークが子ども会の役割と思っています。

末筆になりましたが、お忙しい時間を割いてこの記念誌に原稿をお寄せくださった方々へ、この場をお借りしてお礼申し上げます。

10周年記念実行委員会

さいたま市子ども会育成連絡協議会
10周年記念誌

2012年6月30日発行

発行責任者

さいたま市子ども会育成連絡協議会
会長 小峰 武久